特249
337
498
481

常識叢書

第二輯

被服廢品の利用再生法

被服協會發行

始

特249
481

目次

一 緒言……一頁
二 被服廢品利用の種類……二
三 被服廢品利用に關する心得……四
四 被服廢品利用の實施法……七
五 被服廢品利用の實例……一六
六 古被服類の特種再生法……三五
七 被服廢品の工業的利用の概要……四〇
八 結言……四四

發行所寄贈本

被服廢品の利用再生法

一、緒　言

被服に用ひられる織物類の原料は、主として木綿、羊毛、絹、人絹、麻類等であるが、此等の中、我國で多量に生産され國内の需要を滿してその餘りを海外に輸出することの出來るものは唯絹だけである。その他の木綿や羊毛などはすべて海外から輸入し、而も我々が普通日常の用としてゐるのは綿織物及び毛織物が大部分なのであるから、その輸入する數量は實に莫大なものである。之等の木綿や羊毛は原料として輸入し、これを加工して綿製品、毛製品とし我々の被服其の他に用ひ且つ幾分は海外に輸出してゐるのであるが、その輸入と輸出の差は木綿も羊毛も年々一億圓以上の輸入超過を示してゐる。

此のやうに我國の被服資源は洵に貧弱なもので、その主要なものは殆んど大部分海外からの輸入に俟たなければならない。我が身に着、我が身に纏ふ被服類のそれもこれもすべては自國で生産せられない原料からであることを考へる時、被服類の貴重さを痛感すると同時に、その着古された廢品の一

片と雖も決して無駄にすべからざるを思ふであらう。玆に被服廢品利用の必要が叫ばれ、その實施法が考究されて來る。殊に近代生活の色々の條件が、我々の生活改善を要求し、衣、食、住の三つの中の『衣』の方面に於てもその改善の必要に迫られてゐる。此等の理由により被服廢品利用は小さく見て我々の家庭生活の改善であり、大きく見て我が國の國家經濟上必要な事柄として我々の大いに努力すべきことである。

玆に被服類の廢品利用に關する實際的の記事を收錄し、『被服常識叢書』第二輯として本冊子を刊行して、此の方面の知識の啓發に資し、利用の實施に便ならしめんとする次第である。

一、被服廢品利用の種類

そも〳〵被服廢品とはどんなものを指すか。考へ方によつては世の中に廢品と云ふものは一つもない。古いにせよ、破れてゐるにせよ、そこに在るものは必ずや何等かの使命を有してゐる。何等かの用途があるべきである。從つてそれは廢品ではない。かう云ふことが云へる。實際に於てもその通りである。今本冊子に述べようとする廢物利用も、根本はその考へから出發してゐる。此の意味では、廢品と云ふものは存在しないことになる。そこで、玆では被服廢品と云ふのは被服類が初めに作られた用途に適しなくなつたもの、意味であることゝして記述する。

では被服廢品利用にはどんな種類があるか。先づ實際に於ける被服廢品利用を、その利用される被服類の形の上から見ると、次の三種に區分される。

一　整色補修改造等によつて其の儘更に利用されるもの

これは廢品と云ふには少し勿體ない程度のものではあるが、初めの用途としてはもう不充分のものとなつてゐるものを指す。然しこれを修理するか、改造するか、或ひは染め直して色を整へることによつて、そのまゝでまだ用ひられ得る程度のものである。例へば大人の洋服として着られなくなつたものを、子供服に仕立て直すとか、色の褪めて用ひられなくなつた古着を染め直して又用ふることか云ふ種類である。

二　其の地質材料の小片が他に利用され得るもの

此れに屬するものは、既に被服として元の形のまゝでは使用することは出來ないが、その一部には未だ丈夫な所が殘つてゐて、その部分だけを取つて適當な利用の途を講ずることが出來る程度のものである。例へば、古羅紗の片からスリッパーを拵へ、古ワイシャツから前掛を作り、色々の小片を縫ひ合はせて座蒲團を作る如き場合である。

三　その原料纖維にまで還して再製するもの

即ち、被服品の原形のまゝでは勿論、その小部分の片端（きれはし）も利用出來ないやうな本當の廢品、又は極

く小さい布片等で、此等はその原料繊維にまで分解して、それから再び色々の繊維製品を作り出すのである。例へば、綿襤褸は木綿の繊維に、毛織物屑は羊毛の繊維に、麻布は麻の繊維に、夫々解きほぐして再び糸や織物其の他の製品に用ふる如き場合を指す。

以上の三種の利用法の中で、第一の『整色補修改造等によつて其の儘更に利用されるもの』及び第二の『其の地質材料の小片が他に利用され得るもの』は、その利用法から見て、主として一般家庭で行ふことの出來る廢品利用である。第三の『その原料繊維にまで還して再製するもの』は、家庭では簡單に行ひ得られない工業的の廢品利用である。そこで前者を家庭的被服廢品利用、後者を工業的被服廢品利用と名づけることゝする。本冊子では主として家庭的に行ふ被服廢品利用に關して說述し、家庭に於ける被服廢品の活用の途を示さうと思ふ。然し、工業的の被服廢品利用も、多く家庭から出る繊襤布屑類を原料としてゐるので、家庭とは密接な關係を持つてゐるのであるから、後にその大略を記して參考とすることゝする。

三、被服廢品利用に關する心得

次に被服廢品利用を實際に行ふ場合に於て心得とすべき事柄を列擧する。

一 廢品利用を行ふにはなるべく經濟的に行ふこと。即ち一つの廢品を利用せんがために却つてそ

れ以上の經費のかゝるやうな場合は、本當の廢品利用とは云ひ難い。出來るだけ僅かな經費で利用の途を講ずること。

二 家庭に於ける廢品利用は、品物を無駄にせぬ、と云ふ程度まで行けばよい。品物によつては家庭で下手な利用をなすよりも、屑屋に相當な金で賣つた方が、手輕で而も大きい目から見ても却つて有效である場合がある。即ち、家庭での利用の適否をよく考へること。

三 廢品を利用すると同時に時間の利用を考慮すること。廢品利用に直接の費用がかゝらなくても、これに長い有用な時間を費すことは結局不經濟となる。出來るだけ『時間の廢物』を利用する必要がある。例へば無駄話をしてゐる際に小片を縫ひ合はせるとか、一寸した休憩時間や、電車の中などで編物をすると云ふ風に。

四 廢品利用と同時に『人間の利用』も考へること。例へばなるべく老人とか子供とか、比較的閑暇のある人が行ふやうにすることよい。殊に子供などに對しては、勤儉の美風を奬勵し、手藝を習得させ、趣味性の涵養になり、應用とか研究とかに對する知識を働かす習慣を作る。

五 趣味性を涵養するためには經濟の伴はないと考へられる場合もある。これは趣味のために廢品を利用すると云ふ立場で考へれば、新しいものを求めて行ふに比べてやはり經濟的であると云ひ得る。趣味の手藝に廢品を活用することは結構である。

六 利用しようとする廢品被服の生地が、まだ充分に役立つか否かを確めてから廢品利用を實施すること。即ち、その生地が他の物に利用されて其の價値を發揮し得るだけ丈夫なものであるか否かを調べてから行はないと、利用してもそれが實用にならない場合がある。

七 實際の利用に當つては、利用される品物の本質をよく考へて實行すること。即ち、廢品被服地の種類、その强さなどが、用途に對して適當であるか否か、その廢品は如何なる方法で利用するが適當であるか、などゝ考へてから實行すること。

八 一つの廢品から出來るだけ多くの利用品を生み出すやうに心掛けること。例へば、一著の古いマントを切つて袋一つを作つてあとを捨てるやうな裁ち方をせずに、大部分から子供のマントをとり、更に端片から草履袋を作り、細い片からは鼻緒を拵へると云ふ風に一片の無駄もなく活用する必要がある。

九 廢物利用を贅澤に行はないこと。即ち、一つの廢品を利用するに當つて、出來るだけ高い價値のあるものから順次繰下げて用ひてゆくことが必要である。甲の廢物を乙の種類に利用し、乙種として用をなさなくなつたら始めて丙の種類のものに應用し、順々に價値の低いものに利用を重ねるやうに心掛け、甲種から直ちに丙種、丁種のものに利用しないこと。

十 家庭で利用し盡せない屑廢品でも、工業的利用をなさしめるために、その品物を分類整理して屑屋に賣り拂ふこと。綿、絹、毛の分類、或ひは色物、縞物、白物と云ふやうな區分をしておいて利用に便ならしめる。廢物利用の根本精神は玆にある。

十一 廢品利用の根本義をもう一歩遡つて、出來るだけ廢品の出ないやうに、被服類を製作し、著用し、手入し、處置するやうに心掛けること。

四、被服廢品利用の實施法

扨て、家庭に於て被服廢品を利用するに當つては、如何なる方法で、如何なる順序を以て、如何に實施すべきか。これに就いて次にその概略を説明することゝする。

一 廢品利用の準備

先づ被服廢品を手にして、我々の考へて見なければならないことは、その廢品が利用價値を持つてゐるか否か、と云ふ事である。そのためには、前項『三、被服廢品利用に關する心得』の各項に就いて、その利用しようとする廢品を調べて見る必要がある。その廢品を利用して利益があるかどうか、この廢品地質が利用されるだけの强さを未だ有してゐるかどうか、利用するとすれば大體どんなものにするが適當であるか、と云ふやうな事柄に對して判斷を下さなければならない。

そこで手にした被服廢品の利用價値が定まる。利用の價値ありと判定されたものは、其の儘利用實

施に移る。家庭に於て利用の價値なしと斷定されたもの、或ひは家庭に於ける利用が不適當であると考へられるものは、これを整理して、工業的廢品利用の原料として屑屋へ賣るべく準備して置く。家庭で利用出來ないやうな繻絰屑などは汚れたまゝ捨てゝ顧みない傾向があるが、これを一寸洗濯して火熨斗をかけて品種別に整理しておけば、汚れたまゝを一緒にまぜて賣るよりも高く賣ることが出來る。まして工業的に利用する立場から見れば、家庭の主婦の一寸した注意によつて繻絰の選別にごの位の手數が省けるかわからない。主婦は繻絰屑を高く賣り、製造家は手數を省けると云へば兩者共に德である。

二　廢品利用の用途

そこで家庭で利用する價値があると定つたものは、その用途について更に考究して見ることになる。この用途の考究は廢品利用を實施する上に甚だ重要で、廢品を生かすも殺すも一にその用途の適否に懸つてゐる。要するにその廢品の生地性狀を考へて適材を適所に用ふることに心掛けなければならない。實際の例に就いては後に述べるとして、玆に先づ大體その原則となるべき事柄を擧げると次のやうである。廢品利用實施者は概ねこれに準據して行ふと甚だ便利である。

先づ廢品の用途は、同一種類の品種へ　である。被服類の廢品地質は、同じ品種の物に用ふれば、其の地質の性狀用途に對して先づ間違ひはないわけである。同じもの、大きいのを小さくして用ひ、復

雜な形のものを簡單な形のものに變へる。最も卑近な例を採れば、大人の被服を作り直して子供のそれとする。これはその生地の用途に對して最も適當な方法である。

次に廢品の用途は、類似の品種へ　である。即ち廢品となつた被服類の元來の目的に類似してゐる用途に使ふことである。これもその廢品地質の用途上、甚だしく不適當なる場合は少なからう。簡單な例を採れば、同じく拭ふと云ふ目的で、手拭ひを雜巾にするが如き、或ひは同じく締める用途として帶から繃紐や襷などを取るが如き、これである。

更に廢品利用は、地質の性狀の活用　に意を向けることが必要である。強い地質は强さを要する品物へ、弱くなつた生地は弱くても差支へない用途に、色のあるものは見て美くしかるべき用具に、厚地毛織物ならば保溫を要する部分に、又絹物は絹物、木綿は木綿の夫々その性狀に適當した物に利用すれば廢品としても尙長い使用に堪へられるものである。

尙、廢品利用は成る可く、入用な品物に　向けるがよい。今必要であると云ふ品物が廢品で間に合へば、これを新しく求める費用だけ經濟となるわけである。

三　廢品利用の實施

用途が定まればいよ〳〵之を實際に行ふのであるが、その基礎的の順序方法の概要を述べると次のやうである。

1、解　體

總體的に使ひ得るやうな古被服類は先づ全部解いて、洗濯、洗張り、染色、其の他の加工に適當な形に縫ひ合はせる。部分的に用ひられるやうなものは、その部分だけを取り縫ひ合はせ、又は纏めて次の仕事に便利なやうに準備する。

2、洗　濯

廢品であるから一應は洗濯をして出來るだけ汚れを落しておく。

温潤洗濯は普通の方法で行ひ、木綿や麻などには曹達を少し用ひ石鹸を使つて揉み洗ひをしてもよいが、毛織物や絹織物は上等のマルセール石鹸液で濯ぎ洗ひ又はブラッシ洗ひをし、充分水洗ひをし綿及び絹物などは板張りか伸子張りで乾かすによい。又生地と同樣に染色の强さも考へて、其の儘利用するものは色の褪めないやうな洗濯をしなければならない。一般にモスリン、絹、木綿などの模樣染や無地染のものなどには洗濯に對して割合に弱いものが多く、羅紗、セル、綿服地、絹の縞物絣物などは概して色は强い。洗濯液の温度が高過ぎたり、洗濯劑を用ひ過ぎたり、洗ひ方が强過ぎたりしないやうに注意を要する。

乾燥洗濯を施すべきものは揮發油、ベンジン等で拭ひ又は浸漬して油脂分と共に汚れを充分に落す。部分的の汚れは汚點拔法によつて夫々除いておく。被服協會製の『汚點拔箱』を利用すると便利である。

3、補　修

其の儘利用する古被服はその損傷の程度に應じて種々補修を施す。

破損の比較的多い箇所は洋服類では、袖裏、ポケットの裏、袖口、裾口、内股、臀部等、和服類では袖口、襟、裾、膝の部等で、損傷の種類としては擦り切れが最も多く、其の他綻び、鈎裂、燒穴等の破れなどがあるが、これ等を修理するには、出來るだけ同じ地質を裏當に用ひ、縫ひ方も損傷の種類程度に應じて考へ、目立たない縫方によつて行ひ、同じ生地がない場合には、色合、縞柄、厚さ、組織、强さ等の類似した地質を選ぶことが緊要である。

破損部分が多く其の形のまゝ使用出來兼ねるものは、その丈夫な部分だけを切り取つて加工し又は直接に利用する。

4、加　工

洗濯し補修したもので、その儘用ふるには少し見苦しいやうな廢品被服は、之に適當な加工を施せばよい。

廢品被服の加工には次のやうな方法がある。

（イ）脱　色

染めた被服類の褪色したものを染め替へる場合には先づ色抜きをする。

木綿、麻織物類――脱色しようとする布地の重さの約五%(一反で三百瓦の布ならば約十五瓦)の洗濯ソーダと、同じ量の洗濯石鹸を、布地のゆるゝ〳〵と浸り得る程度の溫湯に溶かして、其の中に品物を入れ二三十分間煮沸すると或る程度まで色は落ちる。

絹織物類――右と同樣に約五%位のマルセール石鹸液を作り、その熱液中で二三十分間振り洗ひし、後よく水洗ひする。

毛織物類――マルセール石鹸二%、アンモニヤ水五%位の液中に入れて二十分位煮沸し、溫湯で濯ぎ後よく水洗ひする。

(ロ) 消色

右の方法で相當に色の抜けたものを更によく色消しするために、名種の布地に對して、色の濃淡に應じて二乃至十%位のハイドロサルファイト(白色粉末)を熱湯に溶かした中で煮沸し、色が消えたら直ちに引き上げて水洗ひする。

(ハ) 漂白

以上の方法で色の抜けないもの、或ひは最初から純白にしようとするものなどは、漂白法を施す。

木綿、麻織物類――水一リットルに十瓦位の割合で晒粉を揑ね溶かし、その上澄液を取り、豫め水で濕した布地を入れて時々攪拌し、一―二時間後取り出して充分水洗ひする。

絹、毛織物類――水一リットルに過マンガン酸カリ一―二瓦の割合の水溶液中に布地を入れ、布が紫色から褐色に變つた時、布を取り出し、薄く酸性亞硫酸ソーダを溶かした液中に入れると忽ち白色となる。あとこれを充分に水洗しておく。

(二) 染色

被服廢品の染色には、色の褪めたものを濃く染め直し、或ひは原色を利用して別の色合に染める色揚法と、原色を抜いて新に他の色に染める染替法とある。

色揚を行ふに當つて、褪色の甚だしいものはその色を平均にするために、前に述べた脱色法を輕く行つてから、同じ色の濃いのに染め、又は類似した色の黝(くす)んだ色合に染めるとよい。縞織物などを目引(色揚)する時は、餘り濃色にすると縞柄が見えなくなることがあるから注意を要する。原色を利用して別の色にしようとする場合は、原色と上掛けする色との混合色を、小片で一應試驗染してから實施すると、思つたやうな色合を得られる。

染替をするものは前述の方法で色を抜いて希望の色の染料で染める。

一般の染色法を簡單と述べると次のやうである。

木綿、麻織物――望みの色の直接染料を、濃淡に應じて、染めるべき品物の重量の〇・五―三％位取り、小量の溫湯に溶かし、これを品物のゆる〳〵と浸る位の水を盛つた染器に加へ、少量の食鹽を入れ、この中に豫め濕した布地を入れて攪拌しつゝ、溫度を加へ煮沸を二三十分續け、望みの色に染つた時、取り出し水洗し乾燥する。

毛織物――望みの色の酸性染料、又は直接染料を採り、醋酸を少量加へた染浴を作り、前と同樣に染め、煮沸は綿麻織物の場合より幾分長く續ける。

絹織物――前と同樣に酸性染料、又は直接染料を取つて少量の溫湯に溶かしたものを、醋酸極少量を加へた冷液に先づ半分程加へ、品物を入れて攪拌し、更に殘りの分を二回位に分けて加へつゝ、染め後溫度を上げて二十分位煮沸する。

之等廢品被服の染色法には、無地染にする浸染法、糸で絞り或ひは板で締めて染める絞り染、蠟で模樣を描いて染め後蠟を落して模樣を出す蠟染、筆、刷毛、クレオン等で描いて模樣を染める描染、色々の版型を作つて染料を捺印する版染、型を置いて染料液を霧吹で吹きつけて染める霧吹染等色々の種類があるが廢品被服の種類、利用の用途等に應じて適當な染法を採つて染色し、廢品を美事に生かすやうに心掛けなければならない。

5、製　作

前記方法で諸種の加工を施したものを、いよ〳〵望みの品物に製作する。製作法はその品種によつて種々異り、その詳細を一々述べることは出來ないので玆にその一般的の方法を簡單に述べておくこゝ、する。

(イ) 型　入

利用すべき廢品地質を裁斷するために、先づ型紙を作り、これを布の上に置いて切り取り線をしるしする。被服類は普通行ふやうに寸法を割り出し、裁斷の線をしるしする。一般に廢品地質は弱い部分が多くあるのであるからその弱い部分を避けて、出來るだけ丈夫な部分を取るやうに型入し、止むを得ず弱くなつた部分を入れなければならない場合には、成る可く弱くても差支へない部分に當てるやうに型入を研究しなければならない。尙その上に、一つの廢品被服から、出來るだけ多くの品物を取るやうに工夫して型を入れ、無駄の片を出さないやうな注意を必要とする。

(ロ) 裁　斷

型入のしるしに從つて鋏を入れ、裁庖丁を使ふ。玆で注意すべきは、縫ひ方によつて夫々必要な程度に縫代を殘すことである。

(ハ) 縫　製

裁斷した小片を手縫又はミシン縫ひをし、或ひは糊で張り合はせ、望みの品物に製作する。縫製は

廢品として特に注意する事項はないから、新品の場合と同樣に行つてよいので詳述するのを略す。

四　廢品利用の成績

以上の方法で廢品被服を利用し、使用して見て、其の結果を調べ、其の成績によつて更に廢品利用の方法や種類などを考慮し、次の場合の參考とするがよい。

五、被服廢品利用の實例

以上で被服廢品利用法の基礎的知識の概要を述べたが、次に、實際如何なる廢品被服類を如何なる品物に利用するか、と云ふ實際問題に就いて、從來行はれて來て相當に效果のありさうな種類を擧げ、廢品利用を行ふ人々の參考に資すること、する。玆に列擧する實例は、各種利用法の總てを盡くしたものではなく、これ以外に甚だ多くの有效利用法がある筈であるから、實際に廢品利用をしようとする人々の、これに暗示を得て色々工夫考案し、更に適切な利用の方途を講ぜられんことを望むものである。

次に記述する利用實例は、一つの廢品から出來る利用品種を色々擧げ、その加工法並に製作法の概要、利用の趣旨、利害等の簡單な說明をつけておく。『四、廢品利用の實施法』の部を參照して實施せられるとよい。

洋服地の利用

△子供服　其の儘或ひは黑か紺に色揚して大人用のものを子供用に。袖の部からは袖、身頃からは身頃を、以下同樣に損傷の部分を避けて型入裁斷縫製する。

△子供チョッキ、子供バンツ等　利用可能の部分の少いものから取れるだけの部分品を取つて作る。

△子供帽各種　薄地羅紗服、子供服地からヴェレー其の他の子供帽を作る。

△通學用手提鞄　濃色に染め直して作る。簡單な刺繍などを施せば尙よろしい。

△足袋靴下のカヴー　厚地羅紗等を用ふれば保溫用となる。

△草履袋　小學生用の草履袋。袋の口に紐を通しておく。

△小兒靴、スリッパー　底芯にボール紙を用ひる。小兒靴用としては美麗な色に染めるとよい。

△女草履　底に帶芯を重ね、表に染め直した服地を用ひ、鼻緒は古半襟などを使ふ。

△水筒覆　染色して子供用水筒覆とする。

手提カバンの一例（出典より）

△筆　入　美麗な色に染め直して筆入を作る。表は一寸した草花などの刺繍をすると氣の利いたものになる。

△冬座蒲團　小片とし二色以上に染め分けて市松模様にでも縫ひ合はせると、手間はかゝるが丈夫な冬座蒲團となる。

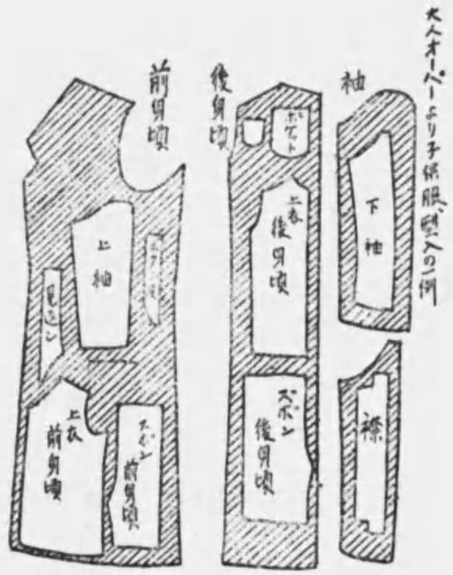
毛織物オーバー・マントの利用

△大型ものを小型に　染めなほし、裏がへして、小型のオーバー・マントに作り換へる。

△子供服　型入を上手にすれば、其の他に色色取れる餘裕がある。

△チョッキ、バンッ等　古洋服地の利用と同様にする。

△其の他　古洋服地の利用に準じて各種の品物とすることが出來よう。



ワイシャツ地の利用

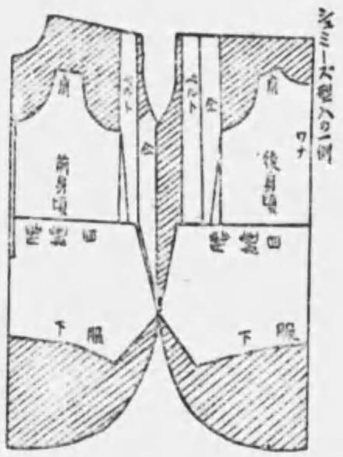
△子供エプロン　袖襟肱の部以外は丈夫であるから、子供エプロンなどに改造する。刺繍模様を入れると一層引立つ。

△男兒シャツ　これも大人用を子供用にする方法で、袖の部から袖を、身頃の部から身頃を、夫夫小さく裁ち出す。

△女兒シュミーズ　型入の一例を圖示すると下圖のやうである殘りは附屬品に用ふ。

△女兒夏服セーラージャケット　身頃と袖とを利用し、衿及びカフスは別の濃紺色地を求める。裁ち殘りは内側の附屬片として用ひる。

△女兒ズロース　胴の中央部から裁ち出す。



被服廢品利用の實例

△女兒夏服、ベビー服各種　富士絹製、ポプリン製の如きは作り榮えがする。襟、袖、裾は別の色布を用ひてひだをとる。その他小兒服の部分品として用ふるもよい。

△前　掛　背の部分から作る。

△鏡掛け　富士絹製のものに絞り染、或ひは蠟染等を應用して作る。

メリヤスシャツの利用

△大人用を子供用に　襟袖肱等の切れた部分を避けて全體を小さく裁つ。

△子供襦袢　右と同樣に小さくし襟をつける。袖が切れてゐて用ひられない時は袖無襦袢にする。

△猿　股　シャツの胸のあたりから切り離し、切口の方を二つに切つて股を作り、他方の袋縫の中に紐を通す。

△腹　卷　身頃の裾の方から適當な長さに輪切りにして作る。太過ぎたら縫ひ縮める。毛メリヤス

がよい。

△枕　類　身頃の部を袋に縫つて作る。子供用としては袖の部分からでも利用出來る。

△濕　布　濕布用としては綿メリヤス類が適當である。

△襁褓蒲團　袖、胸釦の部を切り離して二重にして襁褓の上を覆ふ。

△雜　巾　古綿メリヤスは柔らかくよく水を吸ひ汚れを拭きとるので甚だ適してゐる。

△靴ふき　毛メリヤスの端片などを用ひる。

ネクタイの利用

△子供ネクタイに　汚れた部分を取り美くしい色に色揚げして子供用に作り直す。

△蝶ネクタトに　汚れた部分を切り、短かく縫ひ直して蝶ネクタイにする。

△色揚して其儘　擦り切れた所がなく色が褪めたゞけのものは黑に色揚げすれば織模樣も其の儘見えて立派な黑ネクタイとなる。

△裏返して　ネクタイの裏は中々面白い模樣になつてゐる。ものによつては裏返せば新しいもの同樣に見える。

△腰　紐　ネクタイ一本の長さで丁度腰に廻る。但しネクタイは布地を斜に用ひてゐるので多小伸

縮する傾向があるから芯を入れる必要がある。

△坐蒲團　澤山集つたら大小の方形に切つて繼ぎ合はす。手間はかゝるが美事なものとなる。

△楊子入、名刺入、印鑑入、櫛入、守袋、其の他袋物　ネクタイの織模様の美を利用して上記の如き小物入、袋物等各種を作る。

ソフト帽、羅紗帽子の利用

△スリッパー　裏返して用ひる。芯はボール紙を使ふ。

△子供靴、筆入、靴拭き、其の他　孰れも染色し、或ひは其儘用ひる。洋服地の利用の項を參照。

靴下の利用

△靴拭き　踝から上の部を輪切りにし中に古綿や襤褸を入れた袋として用ひる。

△解して糸とす　よく洗ひ、解して綛に卷き、湯氣で蒸して縮れを直す。瓦斯糸はしつけ糸などに、毛糸は他の靴下破れの補修に、絹も右と同樣に用ひる。

毛布の利用

△子供防寒服　色揚して防寒用の子供服とする。

△子供オーバー　同樣に色揚して子供オーバーを作る。

△スリッパー　冬の臺所用として適當である。

△卷脚絆　長く裁ち、緣かゞりをする。

△風呂場の敷物　適當の大きさに切つて風呂場の足拭ひの敷物とす。

△板の間敷物　冬の寒い時臺所などの板の間の敷物とする。

△湯たんぽ包み　風呂敷位の方形に切つて湯たんぽを包む。

△其の他　一般に防寒用具に應用の途が多い。

着物羽織の利用

△色揚して改造　褪色しても生地の強いものは、適當な色に色揚して元の縞模樣を生かせば平常着には間に合ふ。

△脱色染替　絹物類で地質の丈夫なものは脱色漂白して染替すれば新しいものと同樣になる。

△羽織を着物に　襟、袖、衽等を入れ換へて補修改造すれば平常着物としては充分である。

△婦人服訪問着　黑羽二重羽織の兩袖と片後身頃を袖及

婦人服の一例（玄米より）

び胴に、衿と片前身頃を裾布に、袖口と襠とをバンドにして作り換へる。

△婦人服家庭着　錦紗の模様付などを染め直し、その片身頃から袖、裾布をとり、兩袖から胴をとつて作る。殘る片身頃、衽、衿も他に利用し得る。

△風呂敷　綿織物などで地質の丈夫なものは三幅か四幅に縫ひ合せて大風呂敷を作つておく。

△帶芯　長く縫ひ繼いで、硬く糊張をすると平常帶の芯として利用出來る。

浴衣の利用

△染色して用ひる　色の褪めたものは無地染又は絞り染とすれば、裏地、子供帶其の他用途は色々あらう。

△女兒簡易夏服　色の薄くなつた部分を除いて、女兒夏服、夏のワンピースなどに作り換へる。

△寢冷知らず　普通より長い襦袢を作り、腰に附紐をつけ、股下を拵へる。

△襁褓　よく洗ひ、輪に縫つて用ひる。古いもの程柔かく水分を吸收する性質があつてよい。

女學生袴の利用

△色揚して用ひる　褪色したものを色揚し、仕立直す。

△子供用に　色揚し、弱くなつた所を避けて子供用に改造する。

△少女服　カシミヤ、セル等のものを紺又は黑に染めて小女服とする。水兵服、スカート等に最も適當してゐる。

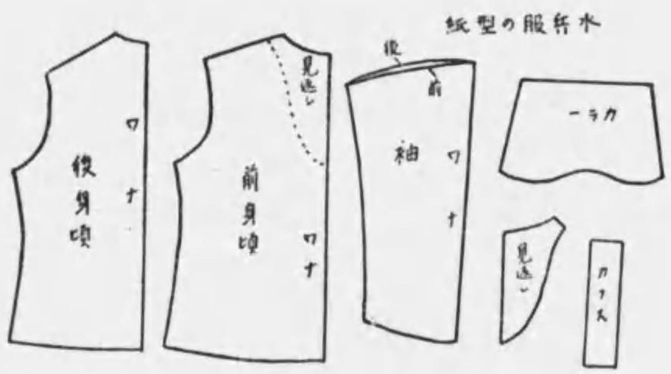
△エプロン　小兒いたづら着のエプロンを作る。

△裾廻し　平常着の裾廻しとすれば一著から二枚分位とれる。

△兵兒帶　色揚し縫ひ繼ぎ、袋に縫つて子供の兵兒帶とすれば甚だ丈夫である。一著から二本位作れる。

△坐蒲團　色揚して座蒲團を作る。柔らかで暖かで品もよい。一著から四五枚分はとれる。

△女帶　女帶の片側にも用ひられる。



帶の利用

△脫色染替　羽二重、綾絹、縮緬などの女帶は脫色漂白して各種染法によつて染替すると再び帶として用ひられ、他にも轉用出來る。

△色揚して　色繻子、其の他淡色のものは濃い色、濃い色に色揚して帶に作り直す。黑繻子も色揚して刺繍するか、油畫で模樣を描くと面白いものになる。

△長襦袢　縮緬男帶など脫色して細かい絞染などを應用すれば、長襦袢の袖と裾廻しになる。

△子供服　色揚して子供服の一部に用ひる方法もあらう。

△襟、袖口、ネクタイ等　黑繻子帶片で繻子襟、袖口等を、色繻子で子供ネクタイを、黑繻子で黑ネクタイを作る。

△財布、紙入、手提袋、巾著、其の他袋物類　朱珍、琥珀、博多などの帶地小片は上に記したやうな各種の入物、袋物の細工に用ひられる。

△紐　類　男帶の類に芯を入れて一寸幅位に絎けると丈夫な腰紐となる。狹く絎けると襟になり、前掛の紐にもなる。

帶芯の利用

△伊達卷芯　その儘狹くして伊達卷芯に用ひる。

△草履、スリッパー等の中底　廢品利用草履、スリッパー等の中底として使ふ。

半襟の利用

△色揚して　揮發油で拭いて脂汚れをとり、薄く色揚するか、簡單な蠟染、絞染をするともう一度掛けられる。

△手提袋　丈夫な布を裏とし、表に半襟の汚れない部分を適當な形に縫ひ合はせて作る。

△櫛入、名刺入、筆入、墓口、紙入、其の他袋物　厚紙を芯として夫々の形を作り、その表に半襟の美くしい部分を貼りつけて作る。二三の異つた半襟を色々の形に縫ひ合はせると奇麗なものになる。

△少女針箱、文箱　小さい木箱、紙箱の表に綿を膨み加減に載せ、その上に數種の異つた半襟を組合はせて縫ひ合はせたものを貼る。

△帶留、腰紐、つけ紐等　兩端のよい部分を細長く切り、芯を入れ或ひは袋縫ひとして色々の紐にする。

△子供ネクタイ　色揚して子供ネクタイに作る。

△肱突き　色々の半襟を組合はせ、菊花形にして肱突きとする。

△爪かけ　婦人下駄の爪かけに縫ひつける。

△ランプシエード　同じやうな薄地半襟を集めて薄い色に染め、電燈のシエードに作る。

△下駄鼻緒　丈夫な生地のものを女下駄の鼻緒にすると一掛けから四足分も取れる。

△伊達巻　古帶芯を用ひ、繼ぎ合はせて染め直した半襟を表にする。

裾廻しの利用

△色揚して　濃い色に色揚して再び用ひ、他に利用する。

△胴裏　繼ぎ合はせ、着物の胴裏などにする。色の異つたものを縫ひ合はせたら一色に染め直して用ひる。

襦袢袖の利用

△鏡掛　染色し直して鏡掛を作る。

△和服部分品　男物絹地などは染め直して肩當、羽織裏、子供兵兒帶等に用ひられる。

洋傘の利用

△坐蒲團、クッション等　パラソルなどは生地が強いから、骨から外し、洗つて、其儘か又は二色か三色に色揚し、適當の大きさに縫ひ合はせて坐蒲團又はクッションにすれば立派なものとなる。

△其の他　袋物、入物、紐類、子供ネクタイ、ランプシエード、其の他半襟の利用と同樣な用途に使はれる。

ショール、スカーフ等の利用

△婦人服　ショール三枚を同色に染め、袖、胴、裾布を各一枚からとつて婦人服を作る。

△女兒服　スカーフを利用して各種女兒夏服を作り出す。

△小さいカーテン　スカーフを色々に染色して小窓、本箱などのカーテンとする。

△ランプシエード　スカーフを淡色に染め適當な形に切れば三四組は出來る。

△ベビー用品　柔かい木綿を裏地に用ひ、表に白スカーフなどを使つて、赤ちやん帽などのベビー用品を作る。

△子供チョッキ、スエター、帽子等　冬向のショールを其儘、又は染色して小さいチョッキ、スエター、スカート、冬帽子などに利用する。

ハンケチの利用

△テーブルセンター、壁飾り等　洗濯漂白し、蠟染を應用してテーブルセンター、壁飾り等を作る。

△小風呂敷　洗濯漂白し、絞染にすれば小風呂敷として使へる。

リボンの利用

△紐類　長く繼いで紵ける。

△小袋物　小さい袋細工に用ひる。

△飾り模様　手提袋、クッション、箱細工等の飾り模様として縫ひつける。

蚊帳の利用

△色揚して　褪色したものは緣布、吊手等を除き天井を外して色揚し、再び縫ひつける。

△小蚊帳　部分的に用ひられるものは小蚊帳に張り換へる。

△食卓覆、蠅帳　白蚊帳を洗ひ、淡青色に染めて食卓覆とし、或ひは蠅帳などを作る。

△魚捕網、虫捕網、虫籠等　網狀に縫つて子供の魚捕網、虫網等に作り、虫籠に張る。

△包紙の芯　包紙二枚の芯に貼り合はせると强靱な包裝紙が出來る。

カーテンの利用

△染色して　白地で汚れたものは、洗濯漂白し、淡色に染めて再び用ひる。

△テーブル掛　白金巾の如きものは洗濯し、蠟染、絞染などを施してテーブル掛とする。

△坐蒲團覆ひ　白地ものを漂白し、夏坐蒲團の覆ひを作る。

△エプロン、前掛等　白地ものを右と同樣に漂白して作る。

△透し布　レースカーテンは洗濯し、色布で作つた袋物、涎掛、クッションなどの上に被せると下色を透して見えて美くしい。

△女兒服部分品　レースカーテンを右と同樣に透し布として用ひ、或ひは袖、襟、裾等に用ひる。

△小カーテン　レースカーテンを淡色に染め、小窓に張り、又は一尺幅位の長いものを作り窓の目隱しカーテンとする。

△クッション　厚いカーテン地は、色揚してクッションを作れば立派なものになる。
△テーブル掛　同樣に厚地のものを色揚してテーブル掛にする。
△袋物　厚地カーテンは比較的大きい袋物にすることが出來る。
△風呂敷　大風呂敷にしておく。

敷布の利用

△雜巾　破れた敷布は雜巾にすればよく汚れを吸收してよい。
△枕カヴー　強い部分を切取つて用ふる。
△露取り　よく洗濯して湯上りにすると、よく水を吸收する。

風呂敷の利用

△色揚、染替して　色の褪めたものは色揚、又は絞りなどに染替して其の儘用ひる。
△クッション、蒲團等　絹風呂敷は染色し直してクッション、坐蒲團等に作る。
△帛紗　絹風呂敷の破れない所を取り、色揚して帛紗にする。
△大風呂敷　綿風呂敷を多く繼ぎ合はせて一色に染め大風呂敷にしておく。

△子供服附屬品　羽二重風呂敷などを濃色に染めれば子供服の裾、襟、ネクタイ等の部分品、附屬品として使用出來る。

空氣枕の利用

△濡手拭入　空氣の洩れて使へなくなつたものを小さい袋に作れば、濡手拭、化粧品等の入物になる。
△草履袋　小學生の草履袋になる。
△涎掛類　防水性があるから、涎掛、吸入器を用ふる時の胸掛等に利用する。

小布屑布の利用

△座蒲團、掛蒲團、クッション等　丈夫なものを澤山縫ひ合せて作る。色と形との配合を適當に工夫する。
△細工物　巾著、名刺入、紙入、守袋、手提袋等の各種袋物、針箱、琴の爪箱等の小箱の表などに利用する。
△紐類　細長く裁つて繼ぎ、袋縫ひとし、又は芯を入れて腰紐、襷、羽織紐、飾紐等の各種紐類とする。

△下駄鼻緒　芯に麻紐を用ひ、丈夫な地質で作る

△鼻緒芯　細く裂き草履の鼻緒芯に用ひる。

△ハタキ　絹布屑などを細く裂いて作る。

△硝子拭、機械拭　軟かいものがよい。捨てる前にもう一度便所掃除布の役目を勤めさせれば尙有效である。

△敷物、スリッパー等　各種屑布を細長く裂き、三本編の紐に組み、長い紐を作つて置き、これを適當の形に綴り縫ひして、風呂場用の敷物、火鉢敷、花瓶敷、スリッパー等に作る。

革類、毛皮類の利用

△子供靴　薄く柔かい革で作ることが必要である。

△スリッパー　縫ひ合はせは、錐で小孔をあけておいて麻糸で縫ふとよい。

△名刺さし　トランクの名詞さしとする。

△靴中敷　靴形に切つて靴の中敷とする。

△バンド類　細長く切つて體裁よく繼ぎ、鞄、ランドセール等のバンド或ひは尾錠革の切れた時に

取換へる。

△針　受　指輪を作り裁縫の時の針受とする。

△足駄爪皮　古い毛皮を切つて冬の爪皮とする。

△椅子蒲團　古毛皮を方形に切つて椅子蒲團とする。

六、古被服類の特種再生法

着古した被服類を再び新しいもの、やうに生かして用ひることを玆では再生と云つてゐるが、廣い意味では、補修、整形、整色、性能の復舊、それから洗濯も、汚點拔も、漂白も總て再生と云へる。此等の一般的な方法に就いては既に前にその概略を述べてあるので、玆では特種のものに限つてその方法を擧げておくこと、する。

1　羅紗の毛羽の擦り切れたのを起毛する法

袖、襟、裾等の毛羽が擦り切れて、下の組織が明瞭に見えるやうになつた羅紗服や外套などを元の通りに毛羽立てるには次のやうにする。

先づ毛糸屋からティーゼルと云ふ西洋薊の乾した實（一本五錢か十錢位）を求めて來て、その先の

曲つた刺で、毛羽の擦り切れた部分を縱横に擦り、毛羽を搔き出す。刺が硬くて地質に引掛つて擦れない場合は羅紗の方へ少し霧を吹いて擦ると刺が柔らかになる。適當に毛羽を搔き出したら一應毛並の方向に擦つて毛羽を並べその上に輕くアイロンを掛けて仕上げる。

2　サーヂ服類の垢ずれを直す方法

サージ服は古くなると膝や脊などが垢ずれで光つて來るが、これを直すには、先づ刷毛でよく塵を拂ひ、アンモニヤの極く薄い液（水コップ一杯にアンモニヤ五六滴位）を霧吹でその部に吹きつけ、奇麗な布をその上に當て、よく熱したアイロンで輕く火熨斗をかける。序に全體を此の方法で、アイロン掛けするとよい。

3　防水布の防水復舊法

クレバネット類のやうなレインコートの防水力が無くなつて、水の滲みるやうになつたものに簡單な防水法を施すには次のやうにするとよい。

疊の上に毛布のやうなものを敷いて、その上に防水しやうとするレインコート類を平に擴げ、この表面に、パラフイン又は西洋蠟燭を横に倒して輕く平等に擦りつけて、蠟の薄い層を布面に殘すやうにし、その上にアイロンを輕く掛けると、蠟は解けて織物地の中へ滲み込み、充分に防水性を與へる。此の際注意すべきは皺の出來ないやう平等に蠟を擦りつけることで、餘分に蠟のついた所は幾分黑じみる傾向がある。少し位黑じみたものはその部を指先で揉めば消える。

此の方法は護謨引防水布、油引防水布の雨の洩るやうになつたものには利かない。

4　毛皮製品、革製品の汚れを落す方法

白い毛皮、白い革手袋の如きもの、汚れを落す簡單な方法は次のやうである。

先づ鋸屑を少し手に入れて、これを丼のやうな容器に盛り、この上に揮發油を注いでよく攪き廻はし鋸屑が充分揮發油で濕る位にし、これを口の廣い瓶の中に入れて封栓をしておく。

毛皮を洗ふには先づ毛皮を平に擴げ、毛の上に揮發油の濕つた鋸屑を擦りつけ、手早く手で擦るか、又は毛の面を合はせて揉んだ後、毛皮を擴げて乾かし、揮發油を發散させ、乾いた鋸屑を充分に拂ひ落す。一回で白くならない場合は此の方法を二三回繰返すと、汚れは鋸屑に吸ひとられて、毛は白くなる。

革手袋は色物の場合は前の鋸屑を、白革のものは、豫め同樣に小麥粉を揮發油で泥狀したものを作つておいて用ひる。洗ふには、手袋を普通のやうに手に嵌めて、之等の揮發油を含んだものをその上につけて、恰度手を洗ふやうに指先や甲や脊を擦り洗ひし、吊して暫らくおくと揮發油が發散するから、あとよく鋸屑或ひは小麥粉を拂ひ落し、革を揉みほぐしておく。

揮發油を取扱ふ場合は火に近づけないやうに注意を要する。

5　古い革具の手入法

手提鞄、トランク等の古くなつて剝げかゝつたものや、龜裂したものは革具手入脂（被服協會製）を塗つて、毛織物片でよく擦り込み、乾いた布で拭いておけば、剝げたのも目立たなくなり、革の傷み方も少く、その上黴が生えないやうになる。

色の褪めた革を色揚するには、染料店から油に解ける染料の黑、茶などを求め、これをテレピン油に少し濃く溶かし、これを齒磨刷毛につけて塗布し、乾いた所を布片でよく擦り、餘分の染料を拭きとり、その上に革具手入脂を塗布して磨いておく。

6　麥藁帽の漂白法

夏の麥藁帽の汚れたのを漂白するには、先づリボンを取り外し、絹毛織物類の漂白の所で述べたやうな過マンガン酸カリ液を齒磨刷毛で塗りつけ、次に酸性亞硫酸ソーダ又は蓚酸の液を塗り白くなつたらこれをよく水洗ひする。更に純白にするには、ハイドロサルファイトを薄く溶かした液（コップ一杯の水に小匙一杯位の割）を引きあゝを水洗するとよい。此のハイドロサルファイト液を引かないとすぐ黃色くなる傾向がある。帽子が乾いたらリボンをつけ、麥藁が膨れたらアイロンをかけて平にする。

リボンを取り、水一リットルにアンモニヤ水四五滴を落した液で刷毛洗ひをし、よく水洗ひし、次に溫湯コップ一杯位に蓚酸を小匙一杯を溶かした液を引き、水濯ぎをし、ゼラチン一枚を水半リットル位に溶かした液を引いて糊付をし乾かし、リボンをとりつける。

8　ソフト帽の洗濯法

古いものは油じみが現はれて見苦しいものであるが、これは先づリボンを取り、綿（わた）や布を卷いた頭のやうな形のものを作つてこれにすつぽりと帽子を被せ、齒磨刷毛のやうなものに揮發油を充分つけて全體をよく擦り、更に脫脂綿に揮發油をつけてもう一度拭く。揮發油が發散したら濕つた布を被せてアイロンを掛ける。リボンは揮發油の中に一應浸し、とり出して掌の中で揉み洗ひ又揮發油に浸しては揉むことを繰り返し、よく油じみをとつてアイロンをかけ、結び蝶を左につけるやうに縫ひつけて仕上げる。

9　パラソルの色揚法

古いパラソルを色揚する簡單な方法は、先づ周圍から中心に向つて布を骨から外し、中央の柄に附いてゐる所はそのまゝに殘し、骨を閉めたまゝ、先の方へまくり返して石鹼液で洗ひ、よく水洗して次に洗面器に溶かした酸性染料液の中に入れ、前に絹織物の染色の項で述べたやうに染色する。此の時パラソルの柄を持つて、先についてゐる布を斷えず振り動かす。染まつたら取り出し、水洗し、薄い

醋酸液に浸し、出來るだけ水を切り、濡れてゐる中に假に骨にこりつけ、擴げて乾かしてから丁寧に布を骨に縫ひつける。

10　表附下駄の洗ひ方

汚れた疊附の下駄は、始め微溫湯で輕く刷毛洗ひをした後、蓚酸匙一杯をコップ一杯の湯に溶かしたものを刷毛で塗り、疊の目の方向に擦り、よく汚れを落し、これを乾いた布で拭き取り、乾かし、茶椀の腹の所で疊目の方向に强く磨擦して仕上げるこ、新しいもの、やうになる。

七、被服廢品の工業的利用の概要

以上家庭で行はれ得る被服廢品利用再生法に就いて述べて來たが、家庭から出る被服廢品で工業的製品の原料こなるもの、及び職業人の手によつて再製品こなるものもその數甚だ多いのであるから、最後に此の方面の廢品利用の概略を記し、家庭を出た襤褸が全然形を變へて再び家庭へ戻つて來る經路を示し、廢物利用の常識に資したいこ思ふ。

一　利用の一般經路

家庭で用途なしこして見放された襤褸屑は、他の紙屑なご、共に屑屋に賣られ、屑屋はこれを屑物問屋に持つて行く。此の屑物問屋は俗に『立場』こ稱し、大勢の屑屋の持つて來た襤褸を買ひ集め、一定量の包みこして先づ消毒所へ運び、此所で蒸氣消毒をし、始めて原料こして取扱ふ。これ等は先づ屑物商の手に入り、利用方法や、種類に應じて多種多樣に選分され、選別されたものは夫々の需要先に送られて色々に加工製作され、再び商品こして世の中に現はれ、家庭に買ひ戻されて來るのである。

被服廢品利用の原料こしては、家庭から出るもの、外に、被服類の製造工場から出る屑、主こして裁ち落し屑が多い。これ等は同一種類のものを多量に得られ、屑こ云つても新しい布地であるから直ちに仲買人の手に渡り、屑商から需要先へ送られて利用される。

二　綿布類の利用

工業的に行ふ綿布類の廢品利用で比較的多量に扱はれるのは、綿襤褸をその原料纖維、即ち綿に還して、再び利用する方法で、その主なものは製綿、製紐、綿毛布、製紙等である。

製　綿　製綿原料の襤褸は白地もの及び簡單な漂白によつて脫色する色物を主こし、襤褸以外には紡績工場の糸屑なごが多く用ひられる。綿にするには襤褸を機械にかけて幾回も引き裂くのである。襤褸から還綿したものは新しい綿より、纖維の長さが短かく、强さも弱く、軟らかである。蒲團綿の代用こして、新しい綿に混ぜて用ふる。

製　紐　右のやうにして還綿されたものは綿こして用ふる外にガラ紡こ稱する太糸に紡いで、二

子撚、三子撚に撚り合はせて電線コード芯、足袋の内底用の粗い柔らかい布、綿ローブ等に使はれる。

綿毛布　ガラ紡の糸で織つた綿毛布は、綿布廢品利用中では優れたものである。綿毛布用として は色物の襤褸から還綿され紡がれる糸も多く、その元の色のまゝを利用して、鼠色や其の他の色模様を織り出す。二枚續きでも一圓から二圓位の薄汚れした毛布は大抵襤褸から作つた綿毛布である。綿毛布は一般に強さ弱く、保溫力も劣るが、價格の低廉な點で内地を始め殖民地などに多量の販路を有してゐる。

製紙　襤褸を元の繊維狀にして利用するものとして前記以外に比較的多量を用ふるのは製紙である。綿繊維に還して、紙屑、藁など、混合して抄紙され、雜誌用紙、圖畫用紙、包裝紙、芯紙、筆記用紙、印刷用紙等となる。包裝紙などには綿繊維が糸のやうな狀態で混入されてゐるのを我々はよく見かける。マッチ箱の打包(ダース)みの紙も、小さいマッチ箱の青い紙も、家庭から捨てられた襤褸がその原料の一部として入つてゐるのである。

輸出襤褸　襤褸の比較的大きいものは輸出される。行先は主として米國で、屋根葺用紙となり、機械拭きとなるさうである。日本などのものが多く用ひられるのは、和服が洋服に比べて長い片に裁斷されてゐるからである。

襤褸再製品　これは家庭的に行ふ前記各種の廢品利用を職業的に行つて商品とするもので、方法は大體家庭で行ふと同樣である。此等の再製品の二三を例示すれば、古手拭、古タオルを漂白して臺灣や朝鮮等へ賣り出し、或ひは古ハンケチを漂白して緣日夜店などで十枚十錢位で叩き賣りし、色物は袋物、帶芯、足袋の中底、草履の鼻緒、鼻緒芯、スリッパー、子供靴、其の他の安價な日用品に利用せられ、その種類枚擧に遑なしである。

三　麻布絹布類の利用

麻布も綿布類と同樣に利用され、白地は麻繊維に還して紙に漉くものが多い。卷煙草の紙などに用ふるライスペーパーは上等の麻襤褸が原料として用ひられる。

絹布類襤褸は家庭から出る數量は他のものに比べて少く主として家庭の日用品などを作るに利用されてゐる。

四　毛織物類の利用

毛織物屑は綿製品と同樣に、羊毛繊維にして利用し、又その儘再製品を作る。

反毛　毛繊物を羊毛繊維に還すことを反毛と云ひ、毛繊物工場ではセル地、モスリン、毛メリヤス、毛糸の如きもの、屑を反毛し、新しい毛に混合して、羅紗、毛布、フェルト等を作つてゐる。反毛繊維は長さも短かく、且つ傷んでゐるので上等の製品には用ひてゐない。

毛織襤褸再製品　これも種々雜多で一々擧げられないがやはり家庭で行ふやうな方法で、染色

し加工して夫々利用してゐる。子供鞄、子供靴、フエルト草履、スリッパー、下駄鼻緒等其の種類は甚だ多い。

五　皮革類の利用

皮革製品の廢物は、適當な補修をしてその儘賣り出し、又は別の小さい革具として利用し、細片からは、名刺さし、尾錠革、革釦、鐔、バッキング等の小物を打ち拔き、全く此等に利用の出來ないやうな古い皮革廢品は、煮沸し乾かして細かく粉粹し、他の肥料と混合し、肥料として菓樹等に用ひてゐる。

八、結　言

以上は被服廢品利用に關する概略に過ぎないが、これを生かして實用とすることが出來るか否かは結局、廢物利用を行はんとする人々の頭と腕の如何にある。實施者がこれに據つて考案し、これに基いて實施せられて有用な利用をしたならば、本冊子の價値は充分に發揮されたものとして、その功績は一に實施者の力に歸すべきものである。かくして本冊子が、被服資源に乏しい我が國の經濟に、又消費節約を緊急事とする現時の家庭の經濟に、幾分の寄與改善をする所があり、且つは人々の廢品被服に對する知識を增し、趣味性の涵養に資する所がありとすれば、本冊子の目的は到達せられてゐると謂ふべきである。

昭和六年七月一日印刷
昭和六年七月十五日發行

【定價金五錢　送料金貳錢】

發行所　東京府下北豐島郡岩淵町大字赤羽　陸軍被服本廠內　被服協會
發行者　同　二木貞雄
印刷所　東京市麴町區隼町四番地　小林又七印刷所　電話銀座(57)三〇六九番
印刷者　東京市麴町區隼町四番地　小林又七　電話九段(33)〇〇四一九番　〇〇八五〇番

不許複製

協會發行圖書

—既刊—

△家庭經濟と被服（定價二十五錢　送料四錢）

△被服常識叢書　第一輯　被服の虫害豫防法（定價十錢　送料二錢）

△同　第二輯　被服廢品の利用再生法（定價五錢　送料二錢）

—近刊—

△被服常識叢書　第三輯　被服の製作

△同　第四輯　被服經濟

△同　第五輯　被服の保存手入法

東京市外赤羽陸軍被服本廠內
被服協會
電話大塚自二番至五番・振替東京七六〇一七番

終